

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

| 評価項目 | 評価指標 | 指標値 | 実績値 | 達成率 | 評価項目の評価 | 取組状況 | 成果・課題 | 基本的運営方針の評価 | 今後の対応方向 |
|-------------|--|-------|--------|--------|---------|--|--|------------|--|
| コレクションの活用状況 | コレクションの稼働率 | 84.0% | 100.0% | 119.0% | a | 所蔵品点数263点(寄託含む)に対し、所蔵品展で229点、特別展で29点、館外展示として三岸サテライト4点、知事室1点、貸し出し5点(前年度からの継続を除く)、計268点を活用し、目標以上の達成となった。 | 【成果】 様々な角度からコレクションを紹介する所蔵品企画中心の展示のため、所蔵品の稼働率は非常に高い。 【課題】 作品の展示期間総計が長くなり、作品保護の点からは好ましくはない。 | A | より多くの作品を収蔵するため、作品情報の収集に努めるとともに、コレクションの充実と作品保全を両立させることを検討する。 また、より安全で鑑賞しやすい作品管理のため、低反射アクリル装着の推進や、保管スペースの確保を検討する。 |
| | 所蔵作品を他の美術館企画展で活用 | | | | | | | | |
| コレクションの充実度 | 収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う | | | | b | 三岸好太郎は、画業の傍ら書籍の装丁・装画、挿絵の制作などにも取り組んだ。そうした作例の貴重な作例である『奥州流血録』(今東光著、先進社、1930年刊)を資料として収集し、当館コレクションの充実を図った。 | 【成果】 資料も含め、着実にコレクションを充実させている。 【課題】 油彩画の秀作の収集機会をさらに充実させたい。 | | |
| 保管状況の適切さ | 適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う | | | | a | 館内の虫害対策など、保管・展示環境の適正な維持に努めるとともに、引き続き、収蔵庫内の整理を行い、脆弱な登録資料については、中性紙による保存箱に分類整理し、保存環境を整えた。また、3点の作品の額に、低反射アクリルを取り付けた。 | 【成果】 保存環境の整備は整いつつある。 【課題】 展示中の安全管理のためにも低反射アクリルの装着点数を増やすことが課題である。 | | |

【評価の評語】

| 評価の結果 | 評価項目 | 基本的運営方針 |
|------------------------|------|---------|
| 優れた成果を上げている | a | A |
| 目標(計画)を達成している | b | B |
| 目標(計画)をほぼ達成している | c | C |
| 目標(計画)を達成できていない(努力が必要) | d | D |
| 方法に再検討が必要 | e | E |

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

| 評価項目 | 評価指標 | 指標値 | 実績値 | 達成率 | 評価項目の評価 | 取組状況 | 成果・課題 | 基本的運営方針の評価 | 今後の対応方向 |
|----------|-------------------------|----------|---------|-------|---------|---|--|------------|---|
| 常設展示の充実度 | 常設展示観覧者数 | 14,616 人 | 6,709 人 | 45.9% | d | 新型コロナウイルス感染症の影響がありながら収蔵作品を4期に分け、各期ごとに特色あるテーマと切り口を設けて三岸好太郎の画業と魅力を紹介することができた。 | 【成果】観覧者数は前年度比20%程増加したが指標値を下回った。満足度はほぼ目標を達成したがリピート率は下回った。 【課題】満足度を維持しつつ、観覧者増加につながる取組の検討が必要 | C | 引き続き大正から昭和初期の日本近代洋画史に鮮やかな光彩を放った三岸好太郎の画業と魅力を顕彰する。展示方法や解説パネルなどを工夫し、満足度やリピーター率の増加を目指す。 |
| | 常設展示観覧者の満足度 | 95.0% | 92.0% | 96.8% | | | | | |
| | 常設展示のリピート率 | 48.0% | 34.0% | 70.8% | | | | | |
| 特別展示の充実度 | 特別展示の観覧者数 | 7,130 人 | 2,512 人 | 35.2% | d | 三岸好太郎が活躍した激動と変転の時代である1920～1930年代を生きた国内外の画家たちの秀作とともに、晩年三岸が夢見た新アトリエの外観・内観を紹介することができた。 | 【成果】アンケートでは企画及び展示内容への評価が高く、効果的な展示ができたが指標値は下回った。 【課題】満足度を維持しつつ、観覧者増加につながる取組の検討が必要 | | |
| | 特別展示観覧者の満足度 | 96.0% | 93.0% | 96.9% | | | | | |
| | 特別展示のリピート率 | 54.0% | 38.0% | 70.4% | | | | | |
| 入館者の拡充 | 美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施 | / | / | / | c | 絵本を通じて作品の魅力を紹介する企画を実施した。 | 【成果】アンケートのコメント欄など好評を得ていた。 【課題】より入館者増につながる企画の検討 | | |
| 展示の状況 | 展示のねらいが効果的に表現できているか | / | / | / | b | 展示解説・展示方法など効果的な展示となった。 | 【成果】アンケートのコメント欄など好評を得ていた。 【課題】より効果的な展示の検討 | | |
| 館外展示の充実度 | 移動美術館入場者満足度 | — | — | — | b | 旧三岸好太郎美術館の建物を利用した「北葉楼札幌本館」に、「ミギシ・サテライト」を設置し、来店者に広く作品鑑賞の場を提供し、広報に努めた。 | 【成果】アンケートでも既知であったり興味を持ったとの回答があり、一定の広報効果があると考えられる。 【課題】認知度の不足。さらなる周知が必要。 | | |
| | その他の館外展示の状況 | / | / | / | | | | | |

【評価の評語】

| 評価の結果 | 評価項目 | 基本的運営方針 |
|------------------------|------|---------|
| 優れた成果を上げている | a | A |
| 目標(計画)を達成している | b | B |
| 目標(計画)をほぼ達成している | c | C |
| 目標(計画)を達成できていない(努力が必要) | d | D |
| 方法に再検討が必要 | e | E |

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

| 評価項目 | 評価指標 | 指標値 | 実績値 | 達成率 | 評価項目の評価 | 取組状況 | 成果・課題 | 基本的運営方針の評価 | 今後の対応方向 |
|------------|----------------------------|----------|---------|--------|---------|--|--|------------|--|
| 教育普及事業の充実度 | 教育普及プログラムの実施数 | 14回 | 21回 | 150.0% | a | 新型コロナウイルス感染症の影響により中止していたボランティアによる展示解説を特別展から再開。 また、学芸員によるギャラリートークを年6回実施したほか、学校との授業連携で展示内容の説明や学校と美術館をオンラインで結び鑑賞授業を行った。 | 【成果】 再開された展示解説は来館者から好評を得た。 学芸員によるミュージアムトークも人数制限を設けて実施し、毎回様々な切り口で三岸作品の魅力を伝えることができた。 学校との授業連携は、解説やオンライン授業を通じて生徒の美術に対する関心を高めることができた。 【課題】 効果的な普及活動のあり方を検討する必要。 | C | 新型コロナウイルス感染症により中止をしていた教育普及活動については概ね好評を得ており継続していく。再開を見合わせた活動については、実施方法や内容等を検討した上で再開もしくは新たな事業の展開を図る。 ホームページについては引き続き展覧会情報など有意な内容を発信していく。 また、ソーシャルメディアについては、投稿数を増加させるなどして来館のきっかけとなるよう取組を図る。 |
| | 教育普及プログラムの参加者数 | 440人 | 612人 | 139.1% | | | | | |
| | 教育普及プログラムの満足度 | 98.0% | — | — | | | | | |
| | 教育普及事業の状況 | | | | | | | | |
| 美術情報提供の充実度 | ARS、図書コーナーの利用者件数 | 4,585人 | 1,127人 | 24.6% | d | 図書コーナーの利用件数は、新型コロナウイルス感染症により落ち込んだR3との比較では横ばいであったが、満足度は維持した。 HPアクセス数もR3と比較して1万件ほど増加したが指標値を下回った。 ソーシャルメディア投稿数をR3と比較すると7割強程度にとどまった。 | 【成果】 図書コーナーでは、図録や関連書籍等の情報提供を行った。 ホームページでは展覧会毎に内容、会期、観覧料など展覧会の概要についての周知や新型コロナウイルス感染症に係る感染防止対策についてのお知らせなどの情報提供を行った。 ソーシャルメディアについては、Twitterで展覧会の開催案内や関連イベントの周知などを情報提供した。 【課題】 ホームページやソーシャルメディアの内容や更新頻度の充実。 | C | |
| | ARS、図書コーナーの利用者満足度 | 77.0% | 75.5% | 98.1% | | | | | |
| | 多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持 | | | | | | | | |
| | HPアクセス件数 | 163,944件 | 89,032件 | 54.3% | | | | | |
| | メールマガジン等発行回数 | — | — | — | | | | | |
| | ソーシャルメディアの投稿数 | 169回 | 128回 | 75.7% | | | | | |
| | 情報発信の状況 | | | | | | | | |

【評価の評語】

| 評価の結果 | 評価項目 | 基本的運営方針 |
|------------------------|------|---------|
| 優れた成果を上げている | a | A |
| 目標(計画)を達成している | b | B |
| 目標(計画)をほぼ達成している | c | C |
| 目標(計画)を達成できていない(努力が必要) | d | D |
| 方法に再検討が必要 | e | E |

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

| 評価項目 | 評価指標 | 指標値 | 実績値 | 達成率 | 評価項目の評価 | 取組状況 | 成果・課題 | 基本的運営方針の評価 | 今後の対応方向 |
|-----------|------------|-----|-----|-----|---------|--|---|------------|-----------------------------|
| 調査・研究の充実度 | 学芸員による調査報告 | / | / | / | a | 特別展「三岸好太郎が生きた時代」では、展覧会趣旨を踏まえた調査研究による解説文を記した8頁の小冊子を刊行(自家印刷)。所蔵品展では、各テーマに関連した三岸作品や画業の関する研究成果を学芸員のトーク(計6回)等で発表した。 | 【成果】 小冊子やトーク、展示における解説パネル等においては、より親しみやすく、調査研究の成果を反映させることができた。 【課題】 三岸研究の基礎となる作品調査(特に遠隔地所在)の機会が得づらいことは課題である。 | A | 調査旅費等を充実させて、研究調査の幅を広げていきたい。 |
| | 二次資料の状況 | / | / | / | | | | | |

【評価の評語】

| 評価の結果 | 評価項目 | 基本的運営方針 |
|------------------------|------|---------|
| 優れた成果を上げている | a | A |
| 目標(計画)を達成している | b | B |
| 目標(計画)をほぼ達成している | c | C |
| 目標(計画)を達成できていない(努力が必要) | d | D |
| 方法に再検討が必要 | e | E |

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

| 評価項目 | 評価指標 | 指標値 | 実績値 | 達成率 | 評価項目の評価 | 取組状況 | 成果・課題 | 基本的運営方針の評価 | 今後の対応方向 |
|---------------|-----------------------|------|------|--------|---------|---|---|------------|--|
| 地域の関係機関との連携状況 | ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数 | 349人 | 402人 | 115.2% | a | ボランティア向けの特別オリエンテーションは例年通り実施した。解説ボランティアの部内研修にも学芸員が、講師として参加した。 | 【成果】 ボランティアが主催する美術講座や特別オリエンテーションなどに講師を派遣した。 | B | 引き続きボランティア組織による講座やオリエンテーションなどの事業に協力していく。学校との連携事業については、来館しての作品鑑賞のほかオンラインを活用した解説など学校のニーズに対応していく。また、通信状況の改善に向けて、モバイルWi-Fiの短期貸借などの対応を検討。 |
| | ボランティアが活動しやすい場の提供 | / | / | / | | | | | |
| | 地域と連携した取組の状況 | / | / | / | | | | | |
| 学校との連携の状況 | キャンパスパートナーシップのメンバー校数 | 2校 | 1校 | 50.0% | d | 新型コロナウイルス感染症の影響による授業連携申し込みの減少が継続した。博物館実習の受け入れや、学校の団体観覧に際しては、三密を避けながら、各学校の授業内容に応じて三岸好太郎について解説を行った。オンラインアート事業では札幌西高校と展示室を繋ぎ鑑賞授業を実施した。 | 【成果】 授業連携を行った学校やオンラインアートの内容は概ね好評を得た。 【課題】 学校からの授業連携の申し込み数は横ばい。また、オンラインアートでの通信状況などの改善が必要。 | B | 引き続きボランティア組織による講座やオリエンテーションなどの事業に協力していく。学校との連携事業については、来館しての作品鑑賞のほかオンラインを活用した解説など学校のニーズに対応していく。また、通信状況の改善に向けて、モバイルWi-Fiの短期貸借などの対応を検討。 |
| | 出張アート教室の延べ参加者数 | — | — | — | | | | | |
| | 指導者研修の延べ参加者数 | — | — | — | | | | | |
| | 学校教育活動への対応数 | 8件 | 7件 | 87.5% | | | | | |
| | 参加者・利用者満足度 | / | / | / | | | | | |

【評価の評語】

| 評価の結果 | 評価項目 | 基本的運営方針 |
|------------------------|------|---------|
| 優れた成果を上げている | a | A |
| 目標(計画)を達成している | b | B |
| 目標(計画)をほぼ達成している | c | C |
| 目標(計画)を達成できていない(努力が必要) | d | D |
| 方法に再検討が必要 | e | E |

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

| 評価項目 | 評価指標 | 指標値 | 実績値 | 達成率 | 評価項目の評価 | 取組状況 | 成果・課題 | 基本的運営方針の評価 | 今後の対応方向 |
|-----------|----------------------|-------|-------|--------|---------|---|--|------------|---|
| 附帯施設の充実度 | レストラン・喫茶利用者の満足度 | 96.0% | 92.0% | 95.8% | c | 事業者による絵はがきや図録など関連商品の販売及び軽食の提供を行った。展覧会観覧者以外も利用できる。 | 【成果】 常設展、特別展を問わず年間を通じて、高い満足度を保つことができた。 【課題】 展覧会やイベントに即した事業者とのより緊密な連携の検討 | C | ショップ事業や監視等業務委託業者ときめ細かく情報共有するなど連携を図りながら、引き続き来館者が高い満足度を得られるよう努める。 また、施設の老朽化が進んでいることから、委託業者とも連携して、日常の保守管理に細心の注意を払い、不具合については、随時速やかな改修に努める。 |
| | ミュージアムショップ利用者満足度 | 96.0% | 92.0% | 95.8% | | | | | |
| | 事業者と協力してのサービス向上の実践 | | | | | | | | |
| 館のホスピタリティ | 館内スタッフの対応に関する利用者の満足度 | 94.0% | 94.0% | 100.0% | b | 委託業者による受付・監視業務の実施。展示作品の保護や安全な鑑賞環境の保持に努めるとともに来館者が快適に鑑賞できるようサポートを行った。 | 【成果】 常設展、特別展を問わず年間を通じて、高い満足度を保つことができた。 【課題】 イベント時等のより緊密な連携が必要 | C | |
| | ホスピタリティ向上に向けた取組み | | | | | | | | |
| 施設環境の保持 | 施設内外の環境への満足度 | 96.0% | 95.0% | 99.0% | c | 新型コロナウイルス感染症の感染状況が予測のつかない中、休憩スペースに空気清浄機を設置し、来館者が安心して利用できるよう配慮した。 | 【成果】 常設展、特別展を問わず年間を通じて、高い満足度を保つことができた。 【課題】 施設の老朽化に伴う各所不具合への対応。 | C | |
| | 施設安全性保持のための必要な措置 | | | | | | | | |

【評価の評語】

| 評価の結果 | 評価項目 | 基本的運営方針 |
|------------------------|------|---------|
| 優れた成果を上げている | a | A |
| 目標(計画)を達成している | b | B |
| 目標(計画)をほぼ達成している | c | C |
| 目標(計画)を達成できていない(努力が必要) | d | D |
| 方法に再検討が必要 | e | E |